



## セッション情報

### 男女共同参画推進ワークショップ

#### [GE] 男女共同参画推進ワークショップ

2020年9月15日(火) 12:05 ~ 12:55

12:05 ~ 12:10

#### [2GE-01] 委員長 挨拶

○小出 寛 (順天堂大学)

12:05 ~ 12:10

#### [2GE-02] 講演者 ご紹介

○瀬尾 美鈴 (京都産業大学)

12:10 ~ 12:45

#### [2GE-03] 性差を超えて：女性研究者のライフサイクルを踏まえたエンパワメント

○宇野 賀津子 ( (公財) ルイ・パストゥール医学研究センター)

キーテクノロジー：ライフサイクルの変化

キーワード：性差、生物学的・歴史的・社会的視点

kazukouno@louis-pasteur.or.jp

性差について、有る無しの論争は長らくあった。ジェンダーフリーを強調しないと、女性が仕事しづらかった時代もあった。女性研究者は女性であることを否定しないと、研究を続けられないのだろうか。私自身は、発生学、免疫学に加えて、性科学についても研究を進めてきた。特に、長年の性差論争も横目で見ながら、性差について、生物学的・歴史的・社会的視点から検討するなかで、今や、性差を否定しなくとも研究者として生きていくことが可能な時代になったと確信を持つことに至った。<br>

多様な研究者の有り様をむしろ生かす事で、ユニークな研究もできるのでないだろうか。先輩達は保育所を作り、女性は業績が無いから地位が低いと言われると、調査をして業績の割には地位が低い事を明らかにした。データでもって周辺状況を明らかにし改善することは、科学者としての強みでもあり、視点を広げることに繋がるのではないだろうか。科学の発展、衛生環境の改善、家電製品の進化は、女性のエンパワメントの周辺状況を整備した。IT環境の進化もまた、男女差の縮小に働いている。新型コロナの広がりの中でテレワークが広がり、一気に多様な働き方がうけいられるようになった。現在の状況は人類史上かつてない状況にある。新しい女性役割・生き方を考える事の出来る時代に今私たちは生きている。女性であることも

性差も認められた上で、より生きやすい社会、産みたい時、産めるときに産める社会を目指して、新たな男と女の間接関係を確立し、私の生き方、研究スタイルを考えてみよう。

<br> 京都の女性研究者のネットワークから広がった女性研究者のメイリングリストは今や全国の研究者に広がり、女性研究者特有の問題を議論している。広く全国の大学の経験を交流することで、可能となった事案もある。柔軟な異分野連携・多様な年齢層連携で女性研究者のエンパワーを進めることが出来ればと考える。

12:45 ~ 12:55

## [2GE-04] 質疑応答

○瀬尾 美鈴 (京都産業大学)